

粉河高等学校

実施日時	令和3年2月10日（水）
参加者	生徒227名、教職員17名、地域住民等0名 計244名
実施内容	マイトイレ作り、パーティション作り、避難所体験等

ねらい

- 1 災害発生時に、地域・学校・家庭等で高校生としてできること、助けられることを身につける。

主なプログラム

- 1 マイトイレ作り
- 2 パーティション作りおよび避難所体験
- 3 防災ハンドブック学習

概要

- 1 LHRの1時間で1学年6クラスを3クラスずつに分けて教室と体育館に分けて密にならない状態の中で防災学習を行う。
- 2 教室ではマイトイレ作りと防災ハンドブック学習を行う。体育館ではパーティション作りをして、避難所の体験を行う。

参加者感想文

- 今まで僕たちは小学生だったり中学生だったので守られる立場だったのですが、高校生になり体の弱い人や高齢者、自分より年齢の低い子どもたちを守る立場になったことを自覚し、正しい防災の知識をあらかじめつけることにより、少しでも災害を減らすよう努力しなくてはいけないと思いました。災害は特に和歌山県では他人ごとではないのだときちんと意識しなくてははいけません。
- 簡易トイレを初めて作った。トイレはトイレでもこんな新聞紙に排出をしなければならぬのは良い気分ではないなと思った。でもこんなことをしなければならぬ日はいつかくる。嫌やな～など思ってる場合じゃない。私たちはまだこんな体験をしていないけど、もうすでにやっている人もいるだろうし、今日やったパーティションの中で何日間も過ごしている人たちのことを考えると私たちは今とても幸せだなと思った。

- 災害が起きて普段普通にしていることができなくなった時、自分自身で今日学んだことを生かしたいと思いました。パーテーションは何度かニュースとかで映像を見たことがあったけど実際に体験してみるとすごく協力が必要だと感じました。自分自身のことも大事だけどいざとなっても協力すること、助け合うことを大切にしたいです。

成果と課題

【成果】

- 防災ハンドブック学習によって地震への備えとは一体どのようなことなのかを具体的に理解することができた。これを機に家族間での集合場所や連絡方法を話し合おうという声も聞かれた。
- 避難所体験では段ボールを組み合わせてパーテーションを作ってみて大きさを実感することができ、避難所生活を少しリアルに感じさせることができた。また、避難所の生活の中で力仕事や高齢者や子どもの世話など高校生に求められる役割を学ぶことができた。

【課題】

- コロナ禍で毎年やっているような3時間程度の防災スクールを行うことはできなかった。日程も少し遅くなってしまった。防災スクールに限らず、避難訓練などもなかなか思うようにできず今年度は防災に関しては行き届いていない部分があり、その意味を含め、今回も短時間でいかに生徒にリアルな災害時の行動や生活を学ばせるかがポイントであったが、なかなか思うようには伝わらなかったように感じた。